

- ① 事前アンケートの結果について
- ② 最近のトピック（各省報道発表資料等）
- ③ 改正物流法の施行に向けた検討状況について
- ④ トラック法改正関係、多重化検討会について
- ⑤ トラック・物流Gメンの活動について（四国合同パトロール等）
- ⑥ **参考資料紹介**
 - ⑥-1 事前にいただいた問題意識等
 - ⑥-2 トラック輸送の原価計算・標準的運賃・運賃交渉
関係資料
 - ⑥-3 **中小物流事業者における物流業務のデジタル化
事例紹介**

中小物流事業者における物流業務のデジタル化事例紹介

(令和6年3月 国交省作成「中小物流事業者における物流業務のデジタル化実証リーフレット」より)

【リーフレットの内容】

荷主と物流事業者間のデジタル化推進に向けてデジタル化の効果や課題を明らかにするため、物流事業者のコスト面の負担が少ない形で、荷主と物流事業者をデジタル化ツールで繋ぎ、業務の効率化を図る実証事業をデジタル化の対象範囲が異なる3つのケースでそれぞれ異なる事業者に対して実施。

当該実証事業から得られた成果(デジタル化による業務効率化の効果や課題等)を整理したもの。



リーフレットアクセス用
2次元バーコード

実証事業におけるデジタル化の対象

	見積・発注	配車・運行計画	集荷・輸送・検収	請求
実証① 複数ツールを活用した一連の業務効率化	事業者間におけるやりとり	計画策定、帳票作成	検収作業、受領書の共有 輸送状況のやりとり 荷待時間可視化	請求書作成、共有
実証② 事務処理を中心とした業務効率化	事業者間におけるやりとり	計画策定、帳票作成	荷待時間可視化	請求書作成、共有
実証③ 輸送に関わる業務を中心とした効率化			荷待時間可視化 CO ₂ 排出量可視化	



中小物流事業者における
物流業務の
デジタル化実証

1 章 デジタル化実証の概要

1 複数ツールを活用した一連の業務効率化

- ◆ 参画事業者は受発注～配車～輸送～請求まで様々な業務課題を抱えており、今回の実証では複数ツールを組合せることで一連の業務の効率化を図りました。
- ◆ 本実証の詳細は2章「複数ツールを活用した一連の業務効率化」にてご説明します。

日々の業務の課題

一連の業務において様々な課題が発生

見積・受注・請求



- 紙や電話等、荷主とのやりとりはアナログが中心で非効率が発生

配車・運行計画



- 計画作業や帳票作成はアナログが中心で負荷が大きい

集荷・輸送・検収

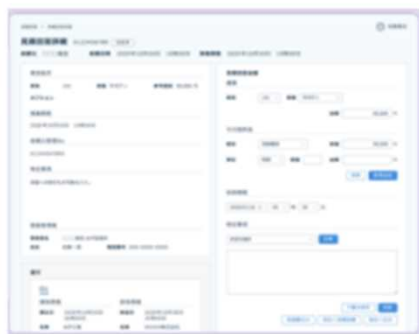


- 荷主からの輸送状況に関する問合せ対応の負荷が大きい
- 積込時の検品ミスの発生

どのような実証を行ったか

- 見積や受注、請求書送付等における荷主とのやりとりや運行管理帳票作成、積込時の検品等において、実証の中で複数デジタルツールを利用して業務を実施し、上記課題解決等の効果を検証

事務処理支援ツール※ 二次元バーコードツール※



- 見積・受注、請求における荷主とのやりとり等をデジタルツール上で完結
- 配車計画、管理帳票作成が可能

- 輸送状況、荷待ち時間の可視化や電子受領サイン、二次元バーコード検品が可能

どのように課題が改善されたか

- 荷主とのやりとりがツール上で完結できたことで、従来発生していた電話等での追加の確認等、不要なやりとりが無くなり、作業時間削減等に繋がった
- 各運行管理帳票がデジタル化できたことで、手作業による帳票作成の手間を無くすことができた
- 二次元バーコード検品により従来発生していた目視による検品ミスを実質ゼロに抑えることが可能になった

ツール導入における課題と克服できたポイント

- 広範囲な業務へデジタルツールを導入する場合、既存のシステムで行っている部分と重複する部分も発生してしまうが、システム間で連携できれば二重入力等の手間が発生せずに効率的に導入できる可能性が見いだせた

本実証の企業情報

テック物流(物流事業者)



125名
社員数



30億円
売上高



鉄鋼
主要貨物

サステック(荷主)



347名
社員数



675億円
売上高



鉄鋼
主要貨物

1 章 デジタル化実証の概要

2 事務処理を中心とした業務効率化

- ◆ 参画事業者は事務処理を中心に業務課題を抱えており、今回の実証ではデジタルツール活用による事務処理を中心とした業務効率化を図る実証を実施しました。
- ◆ 本実証の詳細は3章「事務処理を中心とした業務効率化」にてご説明します。

日々の業務の課題

事務処理を中心に課題が発生

紙や電話でのやりとり



手作業中心のアナログな業務



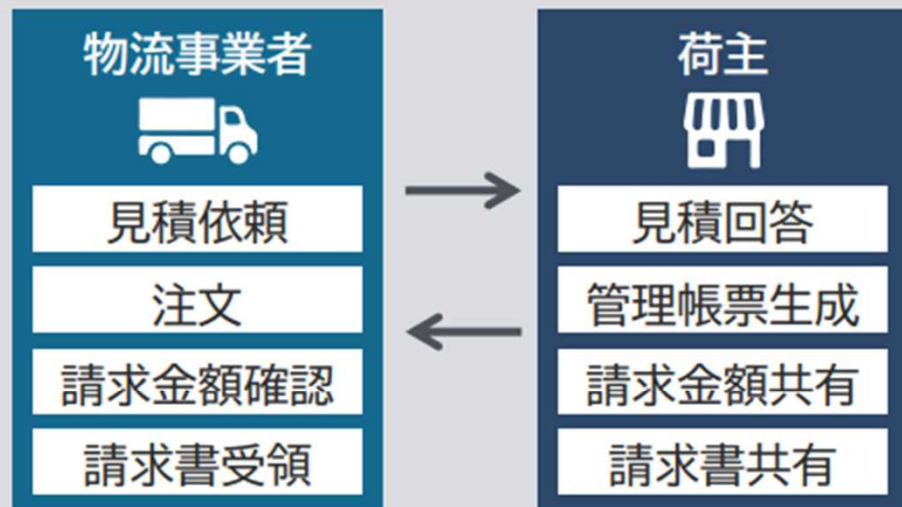
- 社内外での情報共有は紙や電話が中心であり、伝達ミス(受注の対応漏れ)や手間が発生
- 手作業が中心のため、特に請求業務において作業ミスやダブルチェック等による業務負荷が発生

どのような実証を行ったか

- 見積や受注、請求書送付等における荷主とのやりとりや運行管理帳票作成等の事務処理を中心に、実証の中で事務処理支援ツールを利用して業務を実施し、上記課題解決等の効果を検証

事務処理のデジタル化

事務処理支援ツール



どのように課題が改善されたか

- 荷主とのやりとり等がツール上で完結できたことで、電話等でのやりとりで発生していた対応漏れ等の作業ミスの削減や効率化により作業時間を削減
- 各運行管理帳票をデジタル化できたことで、手作業による帳票作成の手間を無くすことができた
- 請求書の電子化や送付の必要なくツール上で共有できたことで、作業時間や紙帳票を削減

ツール導入における課題と克服できたポイント

- 今回のツールは見積からの業務を前提としており、該当業務(スポットの依頼)を対象に効果を確認した
- 一方で参画事業者は毎回の見積を実施しないミルクラン方式も行っているが、請求におけるやりとりで活用する等、部分的な利用でも効果を見出せる可能性があることが確認できた

本実証の企業情報

大友ロジスティクスサービス(物流事業者)



1,975
名



246億
円



工業部品

1 章 デジタル化実証の概要

3 輸送に関わる業務を中心とした効率化

- ◆ 参画事業者は輸送に関わる業務を中心に課題を抱えており、今回の実証ではデジタルツール活用による荷待ち時間の可視化及び輸送におけるCO2排出量可視化を図る実証を実施しました。
- ◆ 本実証の詳細は4章「輸送に関わる業務を中心とした効率化」にてご説明します。

日々の業務の課題

輸送に関わる業務を中心に課題が発生

ドライバーの作業実態の把握



- ドライバーの労働時間削減が求められる中で、荷待ちがどれくらい発生しているのか等、作業実態が掴めておらず改善策が打ちにくい

輸送におけるCO2排出量の把握



- 通常の輸送においてCO2排出量を算出する仕組みはなく、荷主からCO2排出量の報告を求められた際は、手計算で排出量を算出して報告

どのような実証を行ったか

- 実証の中で二次元バーコードツールを活用することで、現場での情報入力によりドライバーの荷待ち時間可視化及び輸送におけるCO2排出量の可視化を行い、上記課題解決等の効果を検証

現場での情報入力

荷待ち算出用情報

到着時間 hh:ss

荷役開始時間 hh:ss

CO2算出用情報

輸送距離 xx km

輸送重量 xx kg



荷待ち/CO2排出量可視化

荷待ち時間/CO2排出量レポート

荷待ち時間 hh:ss

CO2排出量 xx トン

どのように課題が改善されたか

- 荷待ち時間の可視化ができるようになったことで、ドライバーの作業実態を定量的に把握でき、荷待ち削減の取組意識が向上
- CO2排出量の可視化ができるようになったことで、手作業での算出による荷主への報告における作業負荷を削減

ツール導入における課題と克服できたポイント

- 現場のドライバーが問題なく入力できるか、現場の負荷が増えないか等の懸念があったが、入力項目が少なく操作が簡便であったことで、現場での負担をかけずに問題無く入力してもらうことができた

本実証の企業情報

山九(物流事業者)



社員数

12,233
名



売上高

4,065億
円



主要貨物

化成品等